**私もそこにいた　2016 03 20**

**ルカ 23章1-56節　安達均**

ここに集まって、重大事件に気付かされる一人一人に、主の慈しみがゆたかにそそがれますように！

わたしたちの中、キリスト教会員になるということに、教会に期待すること、教会がなにかしてくれるという、そのような思いがあって、洗礼を受け、教会員になっている面があることはいなめない。

しかし、そのような期待は、みごとに敗れてしまう。　自分の期待通りではなかったことに気付かされる。　そして、教会員どおし不満をあらわにしたり、牧師に対して、不満をぶつける方もおられる。

本日は、枝の主日、棕櫚の主日である。　それは、イエスがエルサレムに入られたとき、群集は、イエスが救い主で、このお方こそ、我々をローマの政権から解放してくださる方だと期待した。

だから、棕櫚の葉をしきつめたり、自分の服を、地面に敷き、イエスのエルサレム入城を大歓迎した。　ところが、そのイエスは、期待とは全然ちがって、弱々しい、ロバに乗って登場した。　群集は、イエスへの不信感を持ち始めていた。

今日、長いルカ23章を読んだが、まずはユダヤの指導者は、じゃま者のイエスを死刑に導こうとして必死だった。　しかし、ローマの総督ピラトには、イエスが死罪にあたる罪など見出せないという。

ところが、こんどは、最初はイエスのエルサレム入城を大歓迎した群集が、イエスを死刑にしろ、といって、叫びだす。　自分たちの期待とは全然違った救い主なんか、いらない、十字架刑にかけろといってゆずらない群集の姿があった。

キリスト教会は、毎年、この場面を、このHoly Weekに読み、そして一人一人、いったいどういう意味があるのか。　さらに、この場面の中で、自分はどういう立場にいるのかを振り返る。

クリスチャンになるということは、ソーシャルクラブのような会員制クラブに入って、会員としての恩恵を受けるということなどとは、全く違う面がある。　イエスキリストが、２０００年前に、神が人となり、救い主として、この世に顕われてくださったが、本当に救い主を救い主とせず、いまだに十字架刑に、人類の罪ゆえに、イエスをはりつけにし続けているような面がある。

そして、毎年、レント、受難節を過ごすクリスチャン自身が、イエスをいまだに磔にしつづけているのは、この自分自身の罪ゆえだと気付かされる。自分の罪ゆえに、イエスが今年もはりつけになったと気付くことこそ、クリスチャンになった証ともいえる。　先週の最後に、「あなたもそこにいたのか」という讃美歌を詠い、今日も福音書を読む中で、同じ讃美歌をうたった。　おひとり、おひとり、「私もそこにいた。」ことにきずかれただろうか？　もし気付かれなかったから、今週中にぜひ気付かれるように。　気付かれて方全員が、来週復活節の喜びに満たされる。

**“I Was There, Too”　 2016 03 20**

**Luke 23: 1-56 Pr. Hitoshi Adachi**

Note: No Edit was made… I apologize this rough English.

May God’s Grace and Mercy be poured into the hearts of the people who realize their sins!

When you become a member of church, it is common that you expect something you can receive from the church.

However, he or she realizes your own expectation does not come as you thought. Then one often expresses his or her frustration to other members of the church or complains to pastor or staff.

In the beginning of the service, I explained that today is Palm Sunday. On this Sunday, 2000 years ago, the crowd in Jerusalem expected Jesus as their own Messiah, strong leader of Israel.

Therefore, they shouted “Hosana!” meaning the Lord saves us.. However, he came to Jerusalem on a weak donkey… they were disappointed within a few days.

I read the very long chapter, Luke 23. Jewish leaders tried to kill Jesus. However Pontius Pilate did not see any evidence for Jesus to be killed.

Then the crowd who shouted Jesus as Messiah on Sunday, on Thursday night they changed their direction, and on Friday morning, shouted opposite, “Crucify Him.”

Christian churches read the verses when Jesus crucified every year, then we reflect on the text where you find yourself in the scene.

To be a Christian is very different from becoming a member of Social Club, where a member receives a certain benefit that a member expected. Jesus was born 2000 years ago, God became a flesh to save the world. However, even now, human beings did not realize the Jesus as the savior of the world and we are still crucifying Him.

Every year, Christians go through Lenten Season. And in the season, it is a meaningful fact that each of us realizes that he himself or she herself is truly the one who is crucifying HIm still. This is the meaning of a Christian. In the end of last week, we sung “Were you there”. Today, again, we sung together the same piece. Have you realized that “You were there, too.” If you have not, I hope and pray that you say, “I was there, too,” on Good Friday.